

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第1回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）平成30年度地域活動支援事業の完了について（公開）

（2）令和元年度地域活動支援事業について（公開）

3 開催日時

令和元年5月23日（木） 午後6時05分から午後9時02分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

13人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、
市橋邦夫、岩澤 弘、植木泰行、小林春男、高橋善昭、土屋史郎、
前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

・泉委員、笠原委員、平原委員を除く11人の出席があり、上越市域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：秋山委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料により説明。

—平成30年度地域活動支援事業の完了について—

【水澤会長】

次第3報告(1)「平成30年度地域活動支援事業の完了について」に入る。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料No.1により報告。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—令和元年度地域活動支援事業について—

【水澤会長】

次第4議題(1)「令和元年度地域活動支援事業について」に入る。

本日は、今年度、提案があった全事業について、提案者からの事業説明と質疑応答の後、審査・採点を実施し、事業の採択、補助金額等の決定を行う。

正副会長は審査、採択に加わるため、事務局に会の進行を求める。

【堀川センター長】

- ・提案…7件補助希望額計644万円、予算配分額比34万円超過
 - ・1事業につき、事業説明5分以内、質疑応答8分以内、審査と採点2分以内
- 今の説明について、質疑を求めるがなし。

審査・採点を始める。

整理No.1「今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【土屋委員】

整備については理解したが、何と云っても全体で34万円減らさなければならぬので、いくつか質問をさせてもらう。

情報誌について、平成30年度は部数が300部だったが、今年度は350部で提案している。昨年度並みにならないのか。それと配達料も同じく、昨年度並みにはならないか。

それと、のぼり旗が30セットで積算されているが、これも経費節減のために半分にならないか。さらに作業茶菓子代とかお茶代。ボランティアの場合、飲み物や手袋等のようなものは、全部持参とする。それがボランティアの趣旨というものである。お茶菓子代とか、その辺をカットできないのか。何とか34万円を捻出した

【提案者】

情報誌の作成については、昨年度並みだと理解している。

【土屋委員】

今年度は350部で提案されている。昨年度の実績報告は300部である。これを昨年度並みにすることはできないか。予算よりも補助金希望額が増えているので。

【提案者】

昨年度の提案書では情報パンフレットが350部、それから情報誌については300部となっている。今回も情報誌が300部で、パンフレットが350部で考えている。

【土屋委員】

私が言っているのは情報誌の方。A4カラー16ページの物が300部で、結果報告されていて、今回は350部で提案している。

【提案者】

情報誌には4ページの、いわゆる手作りのものと、16ページのパンフレットが

ある。

【提案者】

表現が紛らわしかったかもしれないが、「紙」と「誌」と分けてある。

【土屋委員】

要するに昨年度並みなのか。

【提案者】

そのとおり。

【土屋委員】

のぼり旗の費用を経費節減で減らせないか。

【提案者】

経費節減の関係で、美化活動の食糧費について言われたが、その件でいうと、最終的にどこかを削らなければいけないとなれば、それはもちろん検討の材料にしていく。

【土屋委員】

削れる箇所と考えてよろしいか。予算が足りないのだから。

【提案者】

全体の額を削るということになると、どこかを削らないといけないので、それは一つの手法の選択肢だと思っている。ただしこれは、市の地域活動支援事業に関するQ&Aに基づいて提案しているものである。

【土屋委員】

30セットと15セットとの違いは。どこに掲示する予定の、のぼり旗と考えているのか。

【提案者】

のぼり旗については、考え方として大ケヤキの周りの部分と、駅から大ケヤキに来るまでの間について、設置を計画した本数である。

【土屋委員】

半分になった場合はどうなるのか。

【提案者】

半分なら半分のままでやる状況になる。

【土屋委員】

大ケヤキの周りだけとか、駅から来るまでとか、どちらかだけとか。

【提案者】

二つ入れるところを一つにするとか、それは可能性としてあるが、ただしその辺は最終的に採択をしてもらった、例えば減額で採択されるとすると、それはその中で、会として実現できるように頑張っていきたいと思っている。今の段階でどこをどうだという話はできない。

【土屋委員】

個々に減らしていきたいと思っていた。茶菓については、ボランティアによる持参とするように仕向けてほしい。

【提案者】

それについては意見としてお聞きしておきたいと思う。

【岩澤委員】

ケヤキだより等でいろいろと見せてもらって、素晴らしい活動だと思っているが、車で行く場合、どこに停めたらよいのか。駐車場はどこにあるのか。その辺をわかるように考えてもらえないだろうか。

【提案者】

その件については、私たちも苦労していて、大和神社の隣に、JAの倉庫があるが、こちらから要望した結果、その駐車場を使ってよいという話をいただいた。その辺に駐車することが可能であるという情報提供をしていきたいと思う。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.1「今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業」の審査を終了。

続いて整理No.2「上越妙高駅でひな祭り事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【高橋委員】

紅白もちは何個予定するのか。

【提案者】

2個入りで、700セットほど計画したいと思っている。

【土屋委員】

展示関係のところで、講師料として7万円を計上しているが、もう2年も講師が来ているが、まだ講師が必要なのか。自分たちだけでできないのか。

【提案者】

そのような意見もあると思うが、やはり講師をお招きしないと、私たちの中では、技術を持っている方はいないので、既に何年も使っていることから、修復したり、まき直ししたり、それから吊るし直しと、そういったことについても、大変技術が必要なので、これについては、ぜひ、先生から指導をお願いしたいということで計上した。

【土屋委員】

技術を習得するには、何年くらいかかりそうなのか。

【提案者】

すごく極めるとなると時間がかかる。

【土屋委員】

人にもよるが、例えば1年で習得する人もいるかも知れない。その人が講師になれば。

【提案者】

身に付けた技術の差も大変異なる。高レベルの方、低レベルの方。

【土屋委員】

やはり7万円の講師料は、かなりの額なので、いつまでも7万円の費用が必要に

なるというのは、大きいと思う。

【提案者】

この7万円の計上は講師料だけではない。これは他の費用も全部含めている。講師料だけでなくその他の費用も合わせている。

【土屋委員】

今までのものは使えないのか。

【提案者】

全部使っている。

【土屋委員】

まだ制作するのか。

【提案者】

今まで使っていたものについては、色が悪くなったり、劣化しているものを、やはり修復しないと見栄えが悪い。やはりその辺を、私たちとしては講師から指導してもらいたいということで、計上している。

【土屋委員】

振る舞いとか展示等で、予算計上したいという意味は分かったが、食糧費とか消耗品が、昨年の実績と比べると大幅にアップしている。その辺を昨年度並みにできないのか。

【提案者】

それは先ほど説明したように、北陸新幹線開業5周年ということを中心に、振る舞いと、紅白もちを計上させてもらったことから、その関係で額が大きくなっている。

【土屋委員】

確かに紅白もち分が食糧費としてアップしている。

【提案者】

そのとおり。その関係で額が大きく上回った。

【土屋委員】

消耗品も倍近くになっているが。

【提案者】

そのとおり。

【有坂委員】

今ほどの説明の中で、展示の雛人形の修理ということで話があったが、この雛人形を飾るのはだいたい3月の1か月くらいか。

【提案者】

1か月半。

【有坂委員】

冬場なので、真夏と違って、直射日光が直接当たるような光はないと思うし、その時期に毎年修理しなければいけないほど傷むのか。

【提案者】

毎年修理というか、修理は今年度計上したが、もう3年飾っているので、やはりカーテン等もないし、ずっとさらされているので、かなり劣化している。ご覧になった来場者から「だいぶあせましたね。」などと実際に言われているので、私たちも承知している。

【有坂委員】

修理費は昨年度も計上されていなかったか。

【提案者】

昨年度は修理したいと提案したが、補助金が減額になった関係で実施していない。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.2「上越妙高駅でひな祭り事業」の審査を終了。

続いて整理No.3「青空ボードゲームフェスin上越妙高事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【前川委員】

ボードゲームは初めての提案だが、今ほど新潟で400人、富山で600人の来場者についての説明があったが、実施した場所と、その時の反響や集客、それに関連した情報をまずは聞かせてほしい。

【提案者2】

新潟や富山ではどんな様子だったかということか。

【前川委員】

まず場所は、どのような場所でやったのか。

【提案者1】

新潟は駅前で行った。駅前の施設を利用してイベントを開催した。その時は動員数400人で、朝から夜まで続け、ボードゲームに関する様々なイベントを開催し、大変な賑わいを創出していた。

【前川委員】

富山も駅前か。

【提案者1】

富山も駅前である。

【提案者2】

総合施設のような部屋が6、7個くらいあって、アリーナのような大きな体育館もあり、大きな建物を丸ごと一つ活用し、それぞれの部屋でいろいろな催し物をしているといったイベントだった。

【前川委員】

その反響は。

【提案者1】

大いにあった。もちろん参加者は、家族連れの方、小さな子どもや、おじいさん、おばあさんまで。福祉関係の施設等にもチラシを配っていたようで、関係する方た

ちも集まっていた。おじいさんやおばあさんと子どもたちが一緒に遊んでいる様子も見られたので、すごく素敵な景色だと思った。ぜひそれを和田区でもできたら、よいイベントになるのではないかと思い、今回この企画を提案した。

【前川委員】

上越妙高駅周辺で開催するのは本当にありがたいが、人口規模を考えると、新潟、富山から比べてかなり少ない場所でやるのだが、入込目標を250人程度見込んでいる。その辺で、これからそれが成功すれば、ずっと続けるという意味合いだが、それについて自信はあるか。

【提案者1】

ある。頑張りたいと思っている。

【前川委員】

金銭的な問題だが、例えばこの新聞折込料。和田区という形で、9千円程度の支出になっているが、例えば、和田区だけであれば、新聞折り込みにしなくてもよいのではないか。

【提案者1】

もちろん手で配ることも考えたが。

【前川委員】

町内会長会を利用してやれば、無料で配れる。そういった面で、このような費用も削減できるのではないか。それと交通誘導員の警備費用が4万8千円になっているが、この誘導員の数は2人か。

【提案者1】

そのとおり。

【前川委員】

2人で11時間。1時間あたりいくらで見積もったのか。

【提案者1】

1時間あたり2,500円である。

【前川委員】

そんなに高いのか。

【提案者1】

私も驚いた。最初は10人くらいのプロの方たちをお願いしようと思っていたのだが、10万円を越えると言われて、さすがにそれは無理だということになった。自分たちのボランティアスタッフを増やして、プロの方たちには、1か所だけ、道を渡る場所をお願いしようと考えている。釜蓋遺跡からラーバンセンターに移動する時に、道路を挟む。その部分だけはプロの方たちからお願いしようということで、2人配置したいと考えている。手前と奥に一人ずつということで予算を組んだが、それでも5万円かかると言われた。しかし、小さな子どもやお年寄り等も来ることを想定しているので、安全を期し、そこは仕方がないと思っている。

【前川委員】

すごく高い。

【提案者1】

私もすごい額で驚いた。

【有坂委員】

誘導員の費用は高い。国家資格だから。

【提案者1】

それも言われた。資格のある方でないと駄目だと。

【有坂委員】

最低でも警備業務検定2級の資格がないとできないので。

【前川委員】

飲食販売のブースを作るという形で行うようだが、この収入はどうなるのか。

【提案者1】

フルサットの空いたスペースを使わせてもらい、屋台のスペースを設けさせてもらおう。その収入は、そのまま屋台の方たちの収入とする。私たちは、それにはノータッチである。出店者の収益という形で行う。できれば和田区周辺の飲食店にも出店してもらえないかと呼びかけさせてもらい、そういった商業的な面でも賑わえたらよいと思う。

【市橋委員】

この支出の中で、ボードゲームとは、ボード上のコマやカード、卓上ゲームなどいろいろとある。その中で何をやるのか。そして今あるものを使うのか、それともまた新しく購入して使うのか。そうすると、予算が変わってくると思う。提案書には何も資機材の費用が入っていない。

【提案者1】

自分たちが所有しているもので、ゲームが150個くらいある。今回は初の開催なので、いきなり和田区の皆さんの大切な予算を使って、新しいものを購入することは念頭にない。あくまで自分たちでできることは自分たちでやるという考えで設定させてもらった。

【市橋委員】

会のメンバーは、上越市内では10人だけなのか。

【提案者1】

実行委員会自体は10人となっているが、上越の「ボードゲーム愛好家」というクラブがあり、97人のメンバーがいる。そこから、この事業をやろうと集まったのが10人のメンバーである。

【市橋委員】

90人以上もいるのか。

【提案者1】

たくさんいる。

【有坂委員】

先ほど、交通誘導員が高すぎて、二人しか依頼しないという話だったが、確かに道路を横断する場所は黒田線の2か所で、間違いなくある。しかし、会場は3か所に分かれているので、フルサットから釜蓋遺跡公園に行く際にも、道路を横断しないといけない。

そのようなところはスタッフが対応するということか。

【提案者1】

そのとおり。

【有坂委員】

当日の動員は何人くらい予定しているのか。

【提案者1】

スタッフだけで総勢40人を考えている。

【有坂委員】

交通誘導だけか。

【提案者1】

交通誘導だけで、最低でも15人は配置しようと考えている。今回は初めてなので、一番大事なのは、やはり怪我や事故がないように注意したいと思っている。そのような面で危険性があるところを中心に人を配置しようと考えている。

【有坂委員】

事故だけは起こさないようにしてほしい。

【岩澤委員】

補助金希望金額が45万9千円、これはあくまで参加費を除いた金額か。

【提案者1】

そのとおり。差し引いている。

【岩澤委員】

果たしてこれだけの人間が集まるかどうかは未知数ではないのか。

【提案者1】

そのとおりだが、集まってもらえるように精いっぱいやりたい。

【岩澤委員】

和田区内には、実行委員会の事務局はないのか。

【提案者1】

今のところないが、今後そのようなものが設けられ、今回これを通して、定期的にそのようなことができるスペースが増えればよいと思っている。例えば和田小学校や大和小学校の授業で取り入れてもらうとか、そのようなことも目指していて、ボードゲームの素晴らしさを注目してもらうという意味合いも込めて、今回このイベントを企画した。

【高橋委員】

イベント機材のレンタル部分で、テーブルとイスの台数が記入されているが、テーブルとイスは上越妙高駅で借りられると聞いたことがある。

【提案者1】

上越妙高駅の前か。

【高橋委員】

前というか、駅自体で管理しているものである。

【提案者1】

借用料が高かった。

【高橋委員】

結局そこで借りるにしても、結構なお金がかかるのか。

【提案者1】

お金がかかってしまう。今回安いところに対応をしたいと考えている。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.3「青空ボードゲームフェスin上越妙高事業」の審査を終了。

続いて整理No.4「和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【高橋委員】

バレーボールだが、10個で6万8千円というのは、すごく金額が高いような感じがするが、1個6千円近くもするのか。

【提案者】

6千円くらいする。

【有坂委員】

提案書の冒頭に、直近の会計収支決算というのが書いてあるが、この中で収入100万円と、支出が80万円ほどとなっているが、この中から、今回の希望する額の一部を補てんするわけにはいかないか。

【提案者】

それはできない。

【有坂委員】

それはなぜか。この収支は要するに、PTAとしての収支ということか。ここに収支決算が出ているということは、あなた方、野球部とバレーボール部の活動でこれだけの費用があるということではないのか。

【提案者】

違う。

【有坂委員】

これはどういう費用なのか。

【提案者】

これは学校全体の費用。

【有坂委員】

それでもその中から、例えば積立して捻出するとか、費用の一部を回すことは可能ではないか。

【提案者】

昨年提案した際にも、そのような話が出たが、それは難しいということで、補助金が削られたが、何とかユニフォームを作ることができた。一応予算は、バレーボール部、野球部とも和田小学校PTAから予算をもらっているが、大会参加費や弁当、保険とか、練習試合もそうだが、新しいボールを使うので、ボール代とか、そのような部分で終わってしまう。

【前川委員】

今ほど予算の話が出たが、予算の金額はいくらか。

【提案者】

6万円くらい。

【前川委員】

この支出の中にいろいろと書いてあるが、例えば、途中でバットが折れたり、あるいはボールがなくなってしまった時は、その6万円の予算から今まで購入していたわけか。

【提案者】

バットに関しては、メンバーが持っていたので、それを借りていた。ボールは、毎年少しずつ買っていたので、その予算はある。

【前川委員】

ボールの予算はないのか。

【提案者】

P T Aから出された予算で買っていた。

【前川委員】

ではこの6万円というのは、野球部とバレーボール部を合わせた予算か。

【提案者】

そのとおり。

【水澤会長】

昨年度に引き続いて提案してもらったが、先ほど有坂委員からも話があったが、P T A会計収支を見ていると、用具や道具の予算化がされていない。私も過去にP T A活動をやってしたが、例えば積立金を予算化して、用具代に充てるようにしていかないといけない。今までは、地域活動支援事業補助金の制度は無かったので、降って湧いたように、補助してもらえるようなことはなかった。前年度のユニフォームについては、私も経験していたので、気の毒だと思いながら、採択した経緯があるが、今回の用具代一式というのは、全くP T A予算の中から支出されていないとなると、いわゆる自己資金がなく、全て補助金で賄おうというのはいかがなものかと思う。その辺は再度検討してもらわないといけないと思うし、この補助金は毎年続くわけではない。今後活動を続けて行く中でも、いろいろな形で、P T A予算

の中からの一部捻出についても考えてもらった方がよいのではないかと思います。

【提案者】

学校側と協議したいと思う。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.4「和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業」の審査を終了。

事務局から、資料の訂正を1件させてもらいたい。

【佐藤係長】

委員に配布した、令和元年地域活動支援事業提案概要一覧【和田区】確定版の整理No.2、事業名「上越妙高駅でひな祭り事業」の概要のところ、事務局の記載誤りがある。それは「3月3日には桜茶等の振る舞いを行う」と記載されているが、日付が3日ではなく、正しくは14日である。訂正をお願いしたい。

【堀川センター長】

整理No.5「吹上遺跡を花で彩るプロジェクト事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【土屋委員】

2反歩と言っても、非常に広くて大変だと思うが、一つ聞きたいのは、釜蓋遺跡との関係はあるのか。いつも吹上遺跡と何となくセットになっている。だからこれも、釜蓋遺跡の方では応援団を作って活動しているが、その辺とは関係ないのか。

【提案者】

斐太遺跡群ということで、釜蓋遺跡があり、吹上遺跡があり、斐太遺跡がある。それが三つそろって、斐太遺跡群ということになっている。斐太遺跡は、吹上遺跡よりも早い時期に翡翠（ひすい）が発掘されたということもあり、国指定を受けたので、物事をどんどん進めたいということで、我々住民もそちらの方に動いた。

【土屋委員】

今私が言っているのは、釜蓋遺跡公園はかなり整備されて、コスモス等の花が植わっている。釜蓋遺跡を管理している方から、吹上遺跡の方に、何かアドバイスのような話は来ていないのか。

【提案者】

相談すれば乗ってもらえると思うが、何年か前に古代米を作ったり、地域活動支援事業補助金で看板を作ったりと、そのようなことはあった。

【土屋委員】

では、この計画に対しては、ノータッチということか。

【提案者】

今回相談はさせてもらったが、直接何かをお願いするということはない。ノウハウはもらったが、事業自身に直接関わることは、今のところないと思う。相談相手として、物事を進めている。

【土屋委員】

細かい話になるが、コスモスはもう終わっている。応援団などからコスモスの種をもらえるとか、そういう話もないのか。

【提案者】

それはちょっと無理だと思う。

【土屋委員】

コスモスの種代も提案されているので。

【提案者】

1町歩植えるとなると、その金額くらいの量がほしい。普通ならそれよりも少なく済むのだが、初めての時に、均等に蒔（ま）くかどうかとか、そういったことを考え、種の数是多めにして予算を組ませてもらっている。

【土屋委員】

釜蓋遺跡ガイダンスにいる方は、このような計画を知っているのか。

【提案者】

それについては市の文化行政課にも説明しているので、当然釜蓋遺跡ガイダンスに行き、担当の学芸員とも話し合っているのです。この計画自体は皆さん承知しているものと考えています。

【土屋委員】

その時に、釜蓋遺跡の方もバックアップしてやるという話はないのか。あくまでも、稲荷の町内会でやってほしいと。

【提案者】

相談すれば、相談相手になってくれると思うが、この直接の作業として、例えば草刈りをする時に、ボランティアが必要なのだというような話をすれば来てもらえるとか、そういったことは当然あるかと思う。

【土屋委員】

いろいろと計画されているが、20アールは非常に大変だと思うが、楽しみにしている。

【岩澤委員】

この事業に対するPR作戦というか、ポスターを配布するように、釜蓋遺跡公園と合わせてやる予定はあるのか。提案書にはPRに関する予算が全く計上されていない。

【提案者】

今のところ、そこまでは考えていなかった。その時になって、その咲き具合を見た中で、もしPRが必要だということになれば、和田区内だけでも、様子を写した写真のカラーコピーなどを使った手作りのチラシを回覧してもらおうか、そのくらいのことしかできないと思う。

【岩澤委員】

いずれにしても、補助金を使って事業を実施するからには、それなりにPRしてもらわないと納得できないというか、そのような考えがあるので、その部分について

でもある程度、力を入れてもらいたいと思っている。

【前川委員】

地域住民をはじめ、一般の人にも参加を募るとい形で書いてあるが、皆さんの構成員が9人。9人が主体になって事業を進めるということだが、例えばこれをやるということ、地域の皆さんは既に承知しているのか。

【提案者】

今回提出した提案書は町内でも回覧した。基本的には町内の皆さんも、私たちがこの事業を行うことは、承知していると思う。

【前川委員】

会を立ち上げる時には、地域の皆さんは全部内容を知っているということか。

【提案者】

町内には周知している。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.5「吹上遺跡を花で彩るプロジェクト事業」の審査を終了。

続いて整理No.6「小学生バレーボールを通じた青少年健全育成等事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【有坂委員】

2点ほど聞きたい。提案書1ページにある直近の会計収支決算だが、収入が19万9千円となっている。これは会費を徴収した金額になるのか。

【提案者】

そのとおり。会に所属する子どものお宅から集めている。

【有坂委員】

それは月額いくらか。

【提案者】

月額一人あたり1千円である。

【有坂委員】

収支計画書の中で、ユニフォームの半袖長袖、計算が13着となっているが、概要の説明では12着になっている。どちらが正しいのか。

【提案者】

13着である。

【有坂委員】

概要書の数字が間違っているということか。

【提案者】

事業の収支計画に記載された13着が正しい。メンバー、試合に出られる人数が12人だが、やはり学年が大きい子になると、体格のかなりよい子もいて、そういった選手も着られるサイズをもう1着持っておきたいというところで、13着にした。

【有坂委員】

13着が正しいのか。

【提案者】

そのとおり。

【橋本副会長】

先ほどもスポーツ関係でユニフォームの話が出ていたが、ユニフォームは年間を通じて、誰が責任を持って保管しているのか。小学校か。

【提案者】

チームで保管している。

【橋本副会長】

チームはどこで保管しているのか。

【提案者】

保管場所は私の自宅である。

【橋本副会長】

それといろいろな大会があると思うが、その大会によっては主催者に、何かしら出費があると思うが、それについては自己資金の中で出すということか。

【提案者】

そのとおり。大会の参加費というものがあるが、それは会員から集めた月の会費の中から支払っている。

【橋本副会長】

聞くところによれば、大会によっては、結構な参加費を出さなければならないらしい。これはバレーボールも野球も同じではないかと思うが、用具はそろったが、資金的にその点は大丈夫か。収支計画には入っていないが、大事な部分だと思うので、その辺を確認しておいた方がよいと思う。

【提案者】

今ほど言われたような、活動する上での最低限の経費というか、例えばチームを、市の小学生バレーボール連盟に登録しなければならない。その登録費とか、選手個々を登録するための登録費とか、あと大会へのエントリー代といったものは、この直近の金額で言えば、19万9千円の会費から賄っている。今回の提案事業の予算については、月々集めている会費とは別で考えていたので、今までの収支を、今回の購入によって削るということはない。

【橋本副会長】

せっかく用具はそろったのだが、大会に参加するための費用が不足しているとなるとよろしくないのではないか。先ほどの和田小学校PTAにも言えることだと思う。

【水澤会長】

ジュニアバレーボールの活動については、いろいろな場面で拝見させてもらっているが、指導者の皆さんの長きに渡った苦勞に対し、感謝申し上げたい。

直近の会計収支の決算にもあるが、和田体育協会からの補助金、それから、大和

小学校区青少年健全育成協議会からの補助金が出ていると思うが、その額は承知しているか。

【提案者】

会計が別担当のため、私自身は把握していなかった。

【水澤会長】

恐らく以前から和田体育協会、大和小学校区青少年健全育成協議会からの補助金が入っていると思う。これは地域の人たちの負担金から出ていると思うので、この辺はきちんと用具とか大会運営に使われていると思うが、一時的なものとは言え、30万円程度という予算は多額と思うのだが、毎年続ける中で予算化し、計画的な購入を考えてもらえればと思う。先ほども話が出たが、この補助金がずっと続くわけではない。バレーボールの活動にあたり、いろいろな形で、地域の方からも応援してもらっていることも承知してもらえればと思う。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.6「小学生バレーボールを通じた青少年健全育成等事業」の審査を終了。

続いて整理No.7「第1回みんなの冬のカーニバル事業」について、提案者に説明を求める。

【提案者1】

— 事業概要に基づき説明 —

【提案者2】

— 事業概要に基づき説明 —

【堀川センター長】

提案者の説明について質疑を求める。

【有坂委員】

1日目の内容の中で、「自転車こいでライトアップ選手権」というのがあって、表

表彰式という項目があるが、この支出の項目を見ると、大玉ころがしの参加賞という項目はあるが、自転車についての表彰式というのは確認できない。恐らく表彰式なので、何かを賞として差し上げると思うが、その費用はどうなっているのか。

【提案者2】

何か景品ということで、考えている部分もあることはあるが、このような自転車をこいで選手権というのは初めてのことなので、何か経費のかからない、例えば賞状のみとか、1位と2位だけに賞を渡すようなことを考えている。何か豪華な景品を差し上げるといったものは考えていない。

【有坂委員】

景品を上げるとか、そういうことではなく、手書きの賞状みたいなものか。

【提案者2】

そのとおり。エントリーして、勝ち上がって行く、その様子を楽しんでもらうのが主の目的である。

【土屋委員】

レルヒ祭や、灯の回廊などと連動してやりたいと書かれているが、来年のレルヒ祭や灯の回廊の日程が分かったら教えてほしい。

【提案者2】

2月3日や4日とか、第一土日の頃だったと思う。ただ、それについてはものすごく悩んだ。その時期にいきなりぶつけてよいものかどうかということと、会場の距離も離れているので。まずはこの和田区の中で、皆で1回やってみて、そして知名度が少しずつ上がってくれば、連携させてもらうことも、将来的な夢だと考えている。

【岩澤委員】

1日目の最後に冬の花火大会が予定されているが、その予算が見当たらない。打ち上げについては、大がかりにやるわけではないのか。

【提案者2】

花火についてはJRのある敷地ということで、条件があると思うので、できないところもあるが、以前、釜蓋遺跡公園で、JCが花火を打ち上げたことを聞いてい

るので参考にしたいと思うが、ただ担当から許可が出なければ駄目なので、実現が厳しければ、小さな線香花火のようなもので代替できないかを考えたい。とにかく、安全第一で検討していきたい。

【水澤会長】

企画の中の収入のところ、協賛金として、企業40社1口5千円となっているが、和田地域の企業からの協賛金ということでよろしいか。

【提案者】

基本的には、和田区の地域の中にある各会社をお願いしたいと考えている。

【堀川センター長】

質疑応答の時間が終了。

— 提案者退席 —

・委員に審査、採点を依頼

— 審査採点シート 採点、回収、集計 —

整理No.7「第1回みんなの冬のカーニバル事業」の審査を終了。

事務局で集計作業を行うので、そちらの時計で午後8時10分に再開したい。

—休憩—

【堀川センター長】

— 審査採点結果説明 —

- ・基本審査で不適合が過半数となった事業なし
- ・優先採択審査でその他の事業となった事業なし
- ・共通審査の委員採点で得点が多い順に順位づけ（満点は275点）

1位 整理No.7 第1回みんなの冬のカーニバル事業 242点

2位 整理No.2 上越妙高駅でひな祭り事業 194点

2位 整理No.5 吹上遺跡を花で彩るプロジェクト事業 194点

4位 整理No.6 小学生バレーボールを通じた青少年健全育成等事業
187点

5位 整理No.1 今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業 177点

6位 整理No.3 青空ボードゲームフェスin上越妙高事業 171点

7位 整理No.4 和田小学校PTA野球部・バレーボール部活動支援事業
160点

審査採点結果に基づき、水澤会長に採択審査の進行を求める。

【水澤会長】

これをもとに、採択事業と補助金額を決めていく。

まず不採択になった事業はなかったということなので、全ての事業を採択してよいかについて諮り、委員全員の下承を得る。

補助希望金額は、和田区の予算額が610万円なので、34万円オーバーしている。

補助金の配分方法等について、委員に意見を求める。

【小林委員】

1位の冬のカーニバル事業は、どうしてもやってもらいたい。必要なもので、これは減額なしにしてもらいたい。それ以外を均等に減らすというか、減額するという形がよいと思う。

【有坂委員】

その他の提案事業を減額する場合の均等というのは、オーバーした34万円を、どのように配分しようと考えているのか。

【小林委員】

均等というのは、金額ではなく率で。

【有坂委員】

私の考えとしては、均等というよりも、こうやって結果として点数が各々出ているわけなので、その点数に重きを置いて、点数によって率を変えてもよいと考えている。昨年も確か若干その点数の差を、減額の率に反映させたと思うが。

【前川委員】

昨年の減額方法も一つの手だと思うが、この中に該当しないと判断した人が何人かいて、その事業が、4件ある。これは優先して採択する事業に合わないという考えでよいのか。

【水澤会長】

順位4位から7位までの4件か。

【前川委員】

該当しないとした人数は2人程度だが。ということは、優先して採択する事業には当てはまらないという考えでよいのか。

【水澤会長】

優先採択事業として該当しないと判断された事業が、4件ある。順位1位から3位までの3件は全会一致で、優先採択事業であると認めた。

【前川委員】

そうなる、点数もそうだが、2人程度でも優先するには値しないということになれば、その辺も考慮した方がよいかという感じがする。

【水澤会長】

他に意見はないか。

今3人から、採択した中で、減額する方法についての意見が出された。

小林委員からは、1位の事業については満額で、残りはいずれかの形で減額をするという意見。有坂委員からは全て減額という意見か。

【有坂委員】

私は全て減額でよいと思っている。点数によって差をつけて、減額する。

【水澤会長】

有坂委員は、全ての事業から減額するが、差のつけ方にはいろいろな方法があるが、とにかく差をつけて減額するという意見。

前川委員の意見は、上位3事業は、全ての皆さんが優先採択事業として認めたので、一人でも優先採択事業に、該当しないというのが4事業あったので、ここから減額するという事でよいか。今3人から意見があったが、他にあるか。

【土屋委員】

該当しないというのが4件あったが、一人か二人程度の話である。全て過半数の委員は該当するとしている。私は皆平等に減額する方法でよいと思う。オーバーした34万円は、大した金額ではないのだから、一律5パーセントカットすることで

よいのではないか。

【水澤会長】

土屋委員は全ての事業を5パーセント程度、同率減額という意見である。

【岩澤委員】

当然やってもらわないといけない、というかやってほしいのが1位で上がっているわけだが、打ち上げ花火の件が出ていた。普通打ち上げ花火というのは、だいたいスポンサーが主体でもって上げてもらうのが趣旨ではないかと思うので、冬のカーニバルの事業で計上されている花火代の21万6千円というのは外して、この部分については、スポンサーを募って、打ち上げられる状態に協賛金が集まれば、スポンサーからの費用で対応してもらったらどうか。あれを1個上げるのに5万円なり1万円で上がるのか知らないが、その辺は1尺でいくらか、5寸はいくらか、花火のサイズによって金額の差はあると思う。本格的な花火を打ち上げるのであれば、専門の花火師の方が来られると思う。

【水澤会長】

要するに減額するかどうかの中身なので。

【岩澤委員】

花火代を減額したらどうか。

【水澤会長】

1事業に対してだけの減額か。

【岩澤委員】

そのとおり。そしてそれを引くと、あとだいたい12万4千円になる。残りについては、下の2位から7位までの事業に減額をあてたらどうか。

【水澤会長】

他に意見はあるか。

いろいろな減額方法、それから満額補助をするかどうかというのがあがあると思うが、まずは昨年度の方法を参考に振り返るか。

【橋本副会長】

減額の額にもよると思うが、昨年度は予算との差額が大きく、委員に提案しても

らい、あの手この手を使って、減額をさせてもらった。今回の場合だと、優先採択審査で該当しないとした委員のいた事業が4事業あるという話もあるが、優先採択に該当しないとした人数は最大でも二人程度である。減額自体は34万円なので、率にして5.5パーセントくらい。先ほど話が出たが、もしオーバーしないのであれば、全事業が予算のとおりになるわけなので、ここで、いじったところで、大した差はそれぞれないと思う。先ほども同じような意見が出たが、34万円のオーバーした部分については、全事業から5.5パーセントをそれぞれ引かせてもらって、単純に減額すればよいのではないかと思う。そこで順位の差を加味するとか、いろいろなことをやったとしても大した差はないということであれば、額的にも34万円ということだから、均等に減額すればよいのではないか。

【水澤会長】

いろいろな意見が出たが、いずれにしても、減額をしなければならない。どんな減額方法とするかということだが。

まずもって、昨年度、私たち委員が決定した減額方法がある。昨年度減額した時の資料を事務局から配ってほしい。

【堀川センター長】

今ほど配布した資料は、昨年度の提案事業の状況なので、今回の順位とは関係ない。昨年度の状況を、もう一度お示ししている。

【水澤会長】

ご覧になって分かるとおり、昨年度は1位から7位までの、全事業について、減額をすると決めて、減額率は、上位下位で、わずかな差だった。ただ当然補助金の希望額に差があるので、額としてはかなり減額されたというところもあると思うが。ただ今年の合計得点を見ても、かなり上位と下位の差がある。それから先ほど話があった、優先採択審査の中の、該当しないとした委員の数は、昨年度は1事業の一人だけだったのが、今回は4事業の中に、一人、二人とそれぞれいる。この辺は全て優先採択審査をして、優先と認めているのだからよいという考えもあったが、これも結果なので。この辺を考慮するかどうか。昨年度の参考資料とともに検討していきたい。

委員に意見を求める。

【土屋委員】

昨年度は予算との差額が200万円、今年度は34万円である。検討して意味がある数字になるか。皆やらなければいけない事業だと思うので。やるからには全事業一律減額でよいと思う。

【水澤会長】

採択された以上、全事業は当然、実行してもらいたい。それにはいろいろな附帯意見を付ける事業もあるかと思う。その辺は昨年度もそうだが、附帯意見を付けてほしいところもあると思うので、後ほど検討しなければいけない。まずは減額について決定したい。

【土屋委員】

どうしても減額しないとイケないのか。

【水澤会長】

どこからか34万円が出るのか。

【土屋委員】

5パーセントずつ減額したらどうか。

【水澤会長】

だから減額の方法について意見を聞いている。均等減額もあり、それから上位からの順位の減額もあると思う。

委員の中から提案してもらった減額方法、配分表というのが一部ある。これは私に事前に意見いただいた部分で、補助金が減額になった場合の配分方法について、有坂委員から提案いただいた減額配分表があるので、委員に配らせてもらう。

【土屋委員】

どうしても差をつけないとイケないのか。

【水澤会長】

差をつけるというか、基本的に、補助希望額に対して。同額でよいということになればそれはそれでよいが。

【土屋委員】

平等に5.5パーセントの減額にはならないのか。

【水澤会長】

だからそれについて委員で検討していく。

【土屋委員】

こちらの方に行くように仕向けている。

【水澤会長】

仕向けてはいない。こんな方法もあるということを説明している。

【橋本副会長】

昨年度のやり方で。

【土屋委員】

昨年度は多額だったから、これでやったが。

【橋本副会長】

結果は大した差は出ない。だからそんなことであれば、5.5パーセントをかけて減らしていってもよいのではないかと。

【水澤会長】

土屋委員の意見として。

【土屋委員】

差をつける。

【高橋委員】

せっかく採点したわけなので、これだけ時間をかけて。

【有坂委員】

高橋委員が言われたように、我々の採点した点数に重きを置きたいということで、今ほど手元にお配りしたこういう表で、差をつけた配点をするというのが、この計算表の見方。額は出ているが、昨年この場で減額しなければいけないということで、オーバーした200万円以上の金について、どのような方法で減額できるかということで、あの時考えて出したのが、事務局から配ってもらった採点一覧表になる。これだとあまり我々の採点した点数が、配分に反映されないという結果になった。今回採点をできるだけ減額の率に反映させたいと思ったのが、今ほど配布した資料

になる。これを見て分かるように、率で行くと、1対0.75くらいの差が出てくるということになる。今回減額する額が34万円という少ない金額なので、確かに、さほど目につくほどの大きな差は出ないと思う。残りの方法としては、均等で減額するか、我々の配点を重視するかという、二者択一しかないのではないかと思う。

【水澤会長】

今ほど有坂委員から、説明と意見があったが、委員から今までいろいろな意見を聞いた。土屋委員からは全て7事業について均等での減額の話があった。

【土屋委員】

差別しないと。

【水澤会長】

均等での減額という意見。それと小林委員からは1位以外を減額とする話もあったが、減額なしでよい事業があるかどうか、これを意見としてお聞かせ願う。全てを減額するか、減額をしない事業があってもよいか。

【植木委員】

全ての事業が採択されたわけなので、減額はやはり全ての事業にするべきだと思う。そうでなければ、優先順位を決めて、予算をオーバーした段階の、それ以下をカットするという話になってしまう。

【水澤会長】

今回7事業、オーバー分が34万円ということだが、本来採択される事業でも、下位から切っていくケースもある。最下位の事業を削ったら、ちょうど予算額に収まるくらいなので、それもありだということ。これは以前にも、そういう方法もあるということだったが、今までこの地域協議会の中ではそれをやってこなかった。委員が言われるように、全て採択されたのだから、減額についても全事業としたり、割合を決めて、減額する等しながら決めてきた。まずは補助額の減額について採決することについて諮り、委員全員の了承を得る。

それでは、令和元年度地域活動支援事業の補助額を減額しない事業があってもよいと思われる方、補助額の減額を全てに行う方がよいと思われる方で採決する。

※採決 補助額を減額しない事業があってもよい 1人

補助額の減額を全ての事業から行う方がよい 9人

減額しない事業があってもよいが1人、補助額の減額を全ての事業から行う方がよいが9人ということで、全ての事業から補助額の減額を行うことに決する。

減額の方法については、先ほど意見があった、全ての事業を均等に減額する方法と、有坂委員が提案した得点率で減額する方法が考えられる。

事務局、先ほど話のあった、全ての事業を均等に減額する方法と、有坂委員から提案してもらった得点率による減額方法を使った配分額案を出してもらってもよいか。

【堀川センター長】

計算に少し時間をもらいたいので、5分程度休憩をお願いします。

【水澤会長】

全ての事業を均等に減額する方法と、有坂委員から提案してもらった得点率による減額方法を使った配分額案を出してもらい、二者択一という形で判断することとしてよいかについて諮り、委員全員の了承を得る。

—休憩—

【水澤会長】

再開する。

有坂委員から提案された方法でやってみたが、不備があるということで、有坂委員から、提案を取り下げることだった。委員からいろいろな意見が出て、二者択一というように話をしたが、一つの提案がなくなったということになると、残りの全事業均等による減額という案になる。これは土屋委員から出された意見だが、均等減額というのは、いわゆる率で行うということか。

【土屋委員】

同率の減額で。

【水澤会長】

予算が610万円で34万円がオーバーしているので、5.5パーセントの同率で減額するということか。他の委員からは、減額する額を均等にしてもよいのでは

ないのかということで、1事業当たり5万円ずつを減額するというような意見もあった。

【秋山委員】

7事業だから、単純に34万円を7で割ったらどうか。

【水澤会長】

それでは採決で決めるか。

【堀川センター長】

その前に事務局が試算した金額を読み上げたいと思うがよいか。

【水澤会長】

お願いします。

【堀川センター長】

およそ5.3パーセントに均等で減額した場合の金額を1位から順にお知らせする。まず補助金希望額と、減額後の額、そして減額する金額の順にお知らせする。

1位 整理No.7 第1回みんなの冬のカーニバル事業

298万7千円のところ、282万9千円 減額が15万8千円

2位 整理No.2 上越妙高駅でひな祭り事業

70万8千円のところ、67万1千円 減額が3万7千円

2位 整理No.5 吹上遺跡を花で彩るプロジェクト事業

19万2千円のところ、18万2千円 減額が1万円

4位 整理No.6 小学生バレーボールを通じた青少年健全育成等事業

33万4千円のところ、31万6千円 減額が1万8千円

5位 整理No.1 今泉城跡の大ケヤキ保護活用事業

142万8千円のところ、135万3千円 減額が7万5千円

6位 整理No.3 青空ボードゲームフェスin上越妙高事業

45万9千円のところ、43万5千円 減額が2万4千円

7位 整理No.4 和田小学校PTA 野球部・バレーボール部活動支援事業

33万2千円のところ、31万4千円 減額が1万8千円

【水澤会長】

今ほど結果について報告してもらったが、均等に減額すると減額する率は、およそ5.3パーセントになる。均等による減額としてよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

それでは均等による減額としたい。これにより全ての7事業の採択と減額が決定した。

いずれにしても、補助希望額から全て同率による減額ということになったので、提案者からは、まずは計画された事業を遂行してもらいたいと思う。この減額によって事業が成り立たないということがないということを望んでいるし、減額によって、事業内容を変更しなければならないが、減額されてもきちんと完了に至るよう、事業を遂行してもらいたいということを附帯意見にしたいと思う。全ての提案者に対し、今ほどの附帯意見を付けてよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

【水澤会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

本日の採択結果を受け、速やかに事務手続きを行い、補助金交付に関する作業を進めていきたい。

次回の会議日程だが、本日、地域協議会開催に係る日程調整の依頼文を配布した。6月は休会の予定になっているが、次回の候補日として、7月18日、19日、25日、26日の4日の中から、いずれも午後6時30分からの開始を予定している。希望日について記載されたら、5月31日までに電話、メール、ファックスなどで事務局まで回答をいただきたい。

・配布資料

吉川区地域協議会意見書（写）

上越市創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。